

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500378
法人名	社会福祉法人 常美会
事業所名	グループホームうわばら
所在地	愛媛県新居浜市上原四丁目1番15号
自己評価作成日	平成 28 年 1 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 2 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「グループホームうわばら」は、新居浜市上原の高台に位置し、豊かな山野の緑に囲まれ自然環境に恵まれた施設です。毎日、四季の織りなす美しい景色を感じる事ができる上大変眺めも良く、天気の良い日には新居浜市内だけでなく瀬戸内海の島々も一望する事もできます。木造平屋建てで木の温もりや香り、“和”を感じる事もでき、落ち着いた雰囲気の中、穏やかでゆったりとした毎日を過ごされています。一人ひとりの個性を重んじ、ホームの理念である「我家」である事を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者本位の介護計画に沿ったサービスを展開されている。利用者を包むように優しくかかわっている姿は、ほほえましく感じられた。法人の他の施設との連携がうまく、頼ったり頼られたりして本当に良い関係ができています。開設してまだ間もないが、地域とのかかわりが一つひとつ丁寧に進められている。運営推進会議を助言や協力いただける方向に進め、利用者一人ひとりにとって地域の方々とのふれあいの時間を広げていけるよう努めている。職員は年齢差があっても個々に実力を発揮し、仲良く笑顔で利用者に対応している。人生の先輩として利用者を尊重する姿勢は、管理者自らいつも考えの中にあり、職員も共有し丁寧な介護が進められている。食事作り専門の職員が配属され、美味しい手間のかかったメニューが提供され利用者に喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームうわばら

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)
氏名 坂田 恵

評価完了日 平成28年1月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念の必要性を最初のユニット会で話し合い、ホームの理念、ユニットの理念を独自に作りあげた。全職員は理念を常に忘れることなく業務にあたり、壁に当たった時には原点に立ち帰るところでもある。</p> <p>(外部評価) 管理者と利用者が、同法人「おくらの里」屋上に行った時、利用者が「我が家が見える」と言った。その言葉を引用し、理念は「和我家」と決定した。2ユニットごとに「しあわせづくり」「十人十色」と決め、理念は遠い灯台の明かりのような存在で全職員が共有し、サービスに活かしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域のイベント等に参加したり、近くの神社に初詣、日常の散歩等を通して、自然に地域に溶け込んでいきたい。法人全体で行なわれる盆踊り大会や、校区の夏祭りに参加し、地域の方々との交流を行っている。離れている地域の方が月に一度小箱作りに来てくださり、ホームの方も一緒になって楽しまれている。</p> <p>(外部評価) 管理者は常日頃より、地域とのかかわりを深めていきたいと考えている。ボランティアの男性の指導による月1回の小箱作りは好評で、物入れやメガネ入れとして活用している。年1回の春祭りやさつまいもの収穫祭では園児との交流がある。近隣の方は高齢の方が多く、じゃこ天持参で家庭訪問を続けている。</p>	地域から孤立することなく、付き合いが続けられる工夫が望まれる。小学校や幼稚園の運動会の見学や、運営推進会議に出席される方々に助言をもらい、地域とのつながりを深めていけるようなお付き合いを期待している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 高齢者が多い地域である為、施設に興味を持って下さる方がおられる。気さくに話ができるような環境作り、職員の指導を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 毎回、メンバーの方からのご意見・ご質問や情報発信が多 く、事業所の活動やイベント等にも活かす事ができる内容の ものもある。今後も、外部からの評価を真摯に受け止め、 サービス向上に活かしていきたい。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議の内容については、ユニット会で職員も一緒に 考えている。テーマは、食中毒、マイナンバー、ストレスや 高血圧など季節や興味関心のある内容が多く、参加者と共に 学習している。時間は短いですが、充実した会議が営まれてい る。記録がきちんと残されており、読み返してもよくわかる 内容となっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市職員の方も運営推進会議に参加され、話し合いがおこなわ れている。事故報告書等、市役所提出時には状況説明と、改 善策等の話し合いをおこなっている。</p> <p>(外部評価) マイナンバーの通知や利用者への送付先の件で、たびたび市 と相談し、解決した経緯がある。事故報告は、まず市の介護 福祉課に連絡し、その後法人内で書類を確認し提出してい る。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 夜間の施錠は安全対策の為におこなっている。施設外に出ら れる方がおり、職員的人数的に見守りが出来ない場合は、施 錠をおこなう。</p> <p>(外部評価) 開設当時は、トイレの窓から外に出てしまう利用者もいた が、今は落ち着いている。日中は玄関からの出入は自由で、 夜間のみ安全のため施錠しており、安全で自由な暮らしを支 援している。利用者は、高齢のため少しずつ足腰が弱ってお り、事業所を我が家と思い定住地として安心した生活を送れ ている。また、職員は日頃から利用者の様子をよく見守って おり、職員全員で利用者の安全 に万全を期している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 「介護者のストレスから虐待が始まる。」とされている。職員の精神面でのケア、職員の情報が管理者やリーダーに伝わるような環境作りを行っている。一人で抱え込ませない事が大切である。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 該当者はいないが、今後の為に研修会等に参加し、制度の仕組みについて理解を深めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時前より家族の方は不安に思われている。入所契約時にわかりやすい説明を心掛けているが、入所時前後も不安や要望があればいつでも説明を行う。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情、要望があれば、すぐその場にいる職員全員に伝達。情報が全職員に伝わるよう、連絡ノートを活用。その場で解決できることは素早く行う。解決策が難しい場合は、同法人内の上層部に相談、助言を求める。 (外部評価) 家族が関東など遠方でも月に1回来所し、利用者や職員と交流している。管理者はご家族の心情を汲み取ったり、より多くの意見や要望を頂けるよう話し易い雰囲気を作れるよう努力している。また、家族より問い合わせがあった場合には、迅速に誠意ある対応をしておき家族からの苦情等はない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月行われるユニット会等で得られた必要な事項は、業務等で反映できるよう努めている。	
			(外部評価) 管理者は話し易く、職員が意見を出し易い雰囲気を出しており、職員は困ったりサービスの方向性を聞きたい時などは、その都度きちんと聞いてくれると安心している。職員は、管理者が看取りや尺八演奏会の企画内容などについて相談に乗ってくれたと喜んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の家庭事情、健康状態、能力等を把握し、支援を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 同法人内で行われている内部研修に参加。研修内容に応じて、外部研修にも参加している。 当法人において、スキルの向上を目的とした、資格習得援助がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者との交流は機会が少なく現状ではできていない。交流機会があれば積極的に参加していく。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 安心してもらえる言葉掛けを心懸けている。不安が取り去られない場合は、家族への連絡をおこない、ホームに預けっぱなしという状態を作らないよう心掛けている。より深く本人への理解を深める為、担当職員を置き、支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に、入所契約時の面接時等に精神面、肉体面、家族を取り巻く諸事情を伺い、本人に対する思いや希望を充分に知り得るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 状態を一番把握してる方から情報を伺い、混乱を招く対応をしないように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 馴れ合いも必要だが、尊厳を持った態度で接するように、常に職員教育を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の状況を把握した上で、お願い出来る事はして頂き、絆を失わないよう支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容院にカットに行かれたり、ドライブや買い物等に行かれている。ご主人の墓参りに行かれた方もおられる。家族が遠く離れている方は、家族の友人が来園される。個人情報大切にしながらも、一人ひとりが築いてきたものを大切にしていきたい。 (外部評価) 職員は、昔よく通っていた場所や道をドライブしたり、行き慣れた美容院へカットに行ったり、また買い物に行ったり知人に声をかけてもらったりするほか、デイサービスへ知人に会いに行くなど、一人ひとりが今まで大切に築いてきたことが継続できるよう支援しており、利用者本人の思いを大事に汲み取り実現している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 人間関係を十分に把握し、トラブルが起きた時は、さりげなく職員が入り、関係がこじれないように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 今後そういう事が発生した場合は、これまでの関係を保てるよう、色々な面で支援していきたい。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 言葉で訴えられる方は把握できる。言葉少ない方こそ、思いを知る必要がある事を、職員は認識し、大事にしていきたい。 (外部評価) 職員が利用者の隣に座り優しく声をかけることで、こっそりと何か思いを言ってくれることがたくさんある。また、夜中の1対1の時、お風呂介助している時やテレビを見ている時などに、職員の知らない利用者の好みのもを初めて知り感動することも多く、気づいたことはきちんと連絡ノートに記録し、職員間で共有している。また、言葉では把握し難い利用者には、ボードを使って表現するなど工夫し思いを掴んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人を一番知っている方からの情報収集や、生活歴、趣味、習慣等を知り、今の生活に生かせるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録に毎日の状態を記録。いつもと違う事が見られた時は職員に伝達をおこない、日々の状態を把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 3か月に一度、計画の見直しを行っている。家族の要望や、介護職員の気づき等を取り入れながらも、本人主体の計画書であることを重視している。	
			(外部評価) 日頃から利用者に寄り添うように努め、何を希望しているかやケアに活かせることは可能な限り反映している。また、ケアプランは月1回のケアカンファレンスで話し合い、気づきやアイデアを盛り込むほか家族の意見も取り入れながら作成しており、プランの見直しは6ヶ月に1回が基本であるが、状態変化が見られた場合はその都度実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日誌、ケース記録、伝達ノート等を活用。口頭での伝達などで情報の共有を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 遠方の家族、高齢の家族、体調が悪い家族等に代わり、本来ならば家族対応の病院受診などにも対応。ラインをつけず、その時その時で柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域柄、買物等できる店もなく、坂道が多く、車での移動が多い。日頃の散歩等を通して、徐々に地域に溶け込んでいきたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご家族(ご本人)の希望により法人の協力病院以外の訪問医療 を利用されている方もいらっしゃるが、良好な関係を保ち適 切な医療を受けられている。 (外部評価) 利用者の誕生日には、協力医療機関で健康診断を行ってお り、受診は職員が同伴し、結果は家族に報告し共有してい る。また、往診はしていないが、歯科や皮膚科は必要な時に 適切に受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師はいないため、同法人内の看護師より、適切な指示や 相談に乗っていただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力病院があり、日頃受診している為、顔なじみであり、何 事も相談にのっていただいている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 開設してから3名の方の看取り介護を行った。2名は御夫婦 で入居されていた為、残された方の今後を重要視し、環境の 変化を伴わない自然な看取りを行った。最初は不安もあった が、大きな学びと感動もあった。今後の課題として、家族の 意向、職員の終末ケアの勉強会をおこなっていきたい。 (外部評価) 近々看取りの同意書に署名、捺印をもらう予定の利用者がい る。3名の看取りの経験があり、最初は恐がっていた職員も だんだん看させてほしいという思いになってきている。今回 看取りの利用者も家族は入院希望だったが、管理者や職員を 信頼し、事業所での看取りの方向で話を進めており、自然な 支援が進められている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 開設時にマニュアルを作成している。全職員が対応できるよう文章化している。ユニット会において勉強会もおこなっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災計画書・災害対策マニュアルを作成している。消防署立ち合いでの避難訓練も行っている。災害や、施設外徘徊者が発生した時は、同法人の協力が得られる。	
			(外部評価) いつ起こるかかわからない災害については、土砂等の災害時の避難対策に同法人内で一緒に取り組んでおり、防火訓練は、平屋建てなので職員が少人数でもスムーズに行うことができる。歩行困難の利用者は、毛布や布団に乗せて引っ張って上げることも可能である。備蓄は1週間分の水や乾パンが用意されている。また、調理は電気であるが風呂はガスなので、日頃から職員全員で火の元には十分注意し火を出さないよう努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者ではなく、人生の先輩である事を職員全員が周知するよう、教育している。できない事を一緒にお手伝いするよう職員に伝えている。	
			(外部評価) できる限り不穏にならないよう丁寧な言葉かけや対応をしつつ、日頃から利用者の過去の栄光などの話に耳を傾けることを優先するなど、人生の先輩として尊敬している。また、大きい声で話しかけるようなことはなく、利用者のそばに行っ て優しく語るよう会話が弾むような工夫をしており、管理者は普段から職員教育の一環としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 傾聴を心掛け、自己決定できるように職員間で根回しを行う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、集団的にならないように、個々の意思決定に添った支援を行う。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 「すてきですね。」「綺麗ですね。」と言葉に出して褒めてあげる事を心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食器は開設時に皆から寄付して頂いた、温かみのある陶器。皆が協力して楽しく食事作り、片付等を行っている。器、味、彩、量を考え、残食が出ないように考えながら調理している。	
			(外部評価) 献立は、法人内の栄養士があれやこれやと思いを巡らせ季節感や味付けなど嗜好を取り入れ作成しており、自慢できるメニューとなっている。食事作りには専門のパート調理員がおり、午前と午後を交替で対応している。職員は余裕をもって介護に専念できるよう休みも十分与えられており、利用者にとっては安心である。また、3ヶ月に1回のみそ作り、夏にはしそジュース、法人でのポン酢作りもあり、利用者は職員と一緒に楽しく会話しながら、笑顔で食事をしている微笑ましい様子が見える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) どうしても水分摂取は少な目になる。細目な水分補給を心掛けている。特に発熱時は脱水症状に陥らない為にも気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケア、就寝前には義歯洗浄を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 現在、日中おむつ着用の方はおらず全員トイレでの排泄である。流す事が出来ない、便器を汚す方もおられ、プライドを傷つけないように、そっと後始末を行っている。	
			(外部評価) 看取りの利用者以外は全員トイレで排泄しており、職員は全員の排泄パターンを把握している。利用者が立ち上がった時などにそっと声掛けをし、さりげなく誘導するなど排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 夏場は水分量が多く摂取できているが、冬場はどうしても難しくなる。みかん等を食べて頂いたり、食事の中に水分を多く取り入れ工夫している。食物繊維を多く取り入れるよう、心掛けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 最初は自由に入浴されていたが、次第に不公平を訴える方が多くなった。公平に入浴できるように日にちを決めた。入浴の嫌いな方もおられ、強制的にならないように臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 一番湯の好きな利用者には「今お湯を入れましたよ」と話しかけるなどし入浴してもらっている。「お風呂」という言葉は遣わず誘導し、安心して入浴できるよう職員のチームプレイで一人ひとりにふさわしい支援や入浴剤を使って香りを楽しむなど工夫しており、利用者全員が嫌がらずに入浴ができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、マイペースで過ごされている。清潔な寝具で安心して入眠して頂けるように支援している。昼夜逆転されている方もおられ、医師からのアドバイスを受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人の薬の内容をいつでも見ることができるように、職員の机の引き出しの中にファイルが置いてある。薬に関して処方等が変わった時は、必ず、個人申し送りノートに記入。体調の変化の有無の確認を怠らない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お茶を入れるのがその方の役割になり、「朝、モップを掛けることが私の仕事よ。」と言われる方。必要とされている事の喜び、張り合いを引き出せるように、支援を怠らない。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 場所柄、坂道が多い為、転倒の危険性が多い。散歩などは、必ず職員が付き添う事としている。隣接のデイサービスに行かれていた方がおられ、時々、友人に会いに行かれている。 (外部評価) 猪が出没したりするので、気をつけて散歩をしている。また、近くの名所に紅葉狩りに車で行く途中、野生の猿などにも遭遇したことがある。お花見には裏口から入れる近くの公園へ行っており、利用者にとっては格好の散歩コースである。車で数分の所にあるあじさいロードに見学に行ったり、父の日には利用者と職員でラーメンやチャーハンを外食するなど満足している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 全員お金に関して管理ができない。家族の要望もあり、所持金は、事務所管理。お金の出入りが明確にわかるように、預り金としている。必要に応じて所持し買物されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも電話できる環境である。精神状態等も考慮し、家族に連絡、話をして頂く事が多い。お孫さんに手紙を出される方がおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ユニット入口の壁面には四季に応じた飾り付けをおこなっている。冬場は日差しが入り、温かいユニットである。夜間、小さな明かりや非常灯にも混乱を起こしている方がおられる。感知式のトイレの電気にも混乱されている方がおられる。設備上どうにもならない。昔ながらの物が一番よい。</p> <p>(外部評価) 木造でゆったりとした中庭があり、明るく風通しがよく見晴らしもよいため、季節が一目でわかる。共有空間の畳コーナーは、小箱作りなどの工作の場、運営推進会議の会場や洗濯物を畳んだり干したりする時に使用する場所となっている。また、利用者は歌を歌ったり塗り絵や足し算をしたりして、ゆったりとした気分できつろいでいる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 畳できつろいだり、家族面会があれば、掘りごたつで話をされている。床暖房であり、冬場でも寒さを訴える方はおられない。横になりたい時は居室に戻られ、誰かと話しをたくなれば出てこられ、マイペースで過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具、本、思い出の品々、亡くなられたご主人の写真、お位牌等、職員が口出しすることなく、危険な物以外は自由に置いていただいている。</p> <p>(外部評価) 家族から届いたお内裏籬が、居室に飾られているなど利用者一人ひとりの大切な場所ができ上がっており、ホッとする安心感のある空間となっている。また、職員が昼間は布団を上げスペースを確保するなど、利用者の家族が訪問してもゆっくり過ごせるよう配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内で混乱を防ぐ為に、説明書きなどを貼って対応。理解できない方には何度も声かけを行う。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500378
法人名	社会福祉法人 常美会
事業所名	グループホームうわばら
所在地	愛媛県新居浜市上原四丁目1番15号
自己評価作成日	平成 28 年 1 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 2 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「グループホームうわばら」は、新居浜市上原の高台に位置し、豊かな山野の緑に囲まれ自然環境に恵まれた施設です。毎日、四季の織りなす美しい景色を感じる事ができる上大変眺めも良く、天気の良い日には新居浜市内だけでなく瀬戸内海の島々も一望する事もできます。木造平屋建てで木の温もりや香り、“和”を感じる事もでき、落ち着いた雰囲気の中、穏やかでゆったりとした毎日を過ごされています。一人ひとりの個性を重んじ、ホームの理念である「我家」である事を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者本位の介護計画に沿ったサービスを展開されている。利用者を包むように優しくかかわっている姿は、ほほえましく感じられた。法人の他の施設との連携がうまく、頼ったり頼られたりして本当に良い関係ができています。開設してまだ間もないが、地域とのかかわりが一つひとつ丁寧に進められている。運営推進会議を助言や協力いただける方向に進め、利用者一人ひとりにとって地域の方々とのふれあいの時間を広げていけるよう努めている。職員は年齢差があっても個々に実力を発揮し、仲良く笑顔で利用者に対応している。人生の先輩として利用者を尊重する姿勢は、管理者自らいつも考えの中にあり、職員も共有し丁寧な介護が進められている。食事作り専門の職員が配属され、美味しい手間のかかったメニューが提供され利用者に喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームうわばら

(ユニット名) うめ

記入者(管理者)
氏名 坂田 恵

評価完了日 平成28年1月20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念の必要性を最初のユニット会で話し合い、ホームの理念、ユニットの理念を独自に作りあげた。全職員は理念を常に忘れることなく業務にあたり、壁に当たった時には原点に立ち帰るところでもある。</p> <p>(外部評価) 管理者と利用者が、同法人「おくらの里」屋上に行った時、利用者が「我が家が見える」と言った。その言葉を引用し、理念は「和我家」と決定した。2ユニットごとに「しあわせづくり」「十人十色」と決め、理念は遠い灯台の明かりのような存在で全職員が共有し、サービスに活かしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域のイベント等に参加したり、近くの神社に初詣、日常の散歩等を通して、自然に地域に溶け込んでいきたい。法人全体で行なわれる盆踊り大会や、校区の夏祭りに参加し、地域の方々との交流を行っている。離れている地域の方が月に一度小箱作りに来てくださり、ホームの方も一緒になって楽しまれている。</p> <p>(外部評価) 管理者は常日頃より、地域とのかかわりを深めていきたいと考えている。ボランティアの男性の指導による月1回の小箱作りは好評で、物入れやメガネ入れとして活用している。年1回の春祭りやさつまいもの収穫祭では園児との交流がある。近隣の方は高齢の方が多く、じゃこ天持参で家庭訪問を続けている。</p>	地域から孤立することなく、付き合いが続けられる工夫が望まれる。小学校や幼稚園の運動会の見学や、運営推進会議に出席される方々に助言をもらい、地域とのつながりを深めていけるようなお付き合いを期待している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 高齢者が多い地域である為、施設に興味を持って下さる方がおられる。気さくに話が出来るような環境作り、職員の指導を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎回、メンバーの方からのご意見・ご質問や情報発信が多く、事業所の活動やイベント等にも活かす事ができる内容のものもある。今後も、外部からの評価を真摯に受け止め、サービス向上に活かしていきたい。	
			(外部評価) 運営推進会議の内容については、ユニット会で職員も一緒に考えている。テーマは、食中毒、マイナンバー、ストレスや高血圧など季節や興味関心のある内容が多く、参加者と共に学習している。時間は短いですが、充実した会議が営まれている。記録がきちんと残されており、読み返してもよくわかる内容となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市職員の方も運営推進会議に参加され、話し合いがおこなわれている。事故報告書等、市役所提出時には状況説明と、改善策等の話し合いをおこなっている。	
			(外部評価) マイナンバーの通知や利用者への送付先の件で、たびたび市と相談し、解決した経緯がある。事故報告は、まず市の介護福祉課に連絡し、その後法人内で書類を確認し提出している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間の施錠は安全対策の為におこなっている。施設外に出られる方がおり、職員の人数的に見守りが出来ない場合は、施錠をおこなう。	
			(外部評価) 開設当時は、トイレの窓から外に出てしまう利用者もいたが、今は落ち着いている。日中は玄関からの出入は自由で、夜間のみ安全のため施錠しており、安全で自由な暮らしを支援している。利用者は、高齢のため少しずつ足腰が弱っており、事業所を我が家と思い定住地として安心した生活を送れている。また、職員は日頃から利用者の様子をよく見守っており、職員全員で利用者の安全に万全を期している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 「介護者のストレスから虐待が始まる。」と言われている。職員の精神面でのケア、職員の情報が管理者やリーダーに伝わるような環境作りを行っている。一人で抱え込ませない事が大切である。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 該当者はいないが、今後の為に研修会等に参加し、制度の仕組みについて理解を深めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時前より家族の方は不安に思われている。入所契約時にわかりやすい説明を心掛けているが、入所時前後も不安や要望があればいつでも説明を行う。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情、要望があれば、すぐその場にいる職員全員に伝達。情報が全職員に伝わるよう、連絡ノートの活用。その場で解決できることは素早く行う。解決策が難しい場合は、同法人内の上層部に相談、助言を求める。 (外部評価) 家族が関東など遠方でも月に1回来所し、利用者や職員と交流している。管理者はご家族の心情を汲み取ったり、より多くの意見や要望を頂けるよう話し易い雰囲気が作れるよう努力している。また、家族より問い合わせがあった場合には、迅速に誠意ある対応をしており家族からの苦情等はない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月行われるユニット会等で得られた必要な事項は、業務等で反映できるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者は話し易く、職員が意見を出し易い雰囲気を出しており、職員は困ったりサービスの方向性を聞きたい時などは、その都度きちんと聞いてくれると安心している。職員は、管理者が看取りや尺八演奏会の企画内容などについて相談に乗ってくれたと喜んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の家庭事情、健康状態、能力等を把握し、支援を行っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 同法人内で行われている内部研修に参加。研修内容に応じて、外部研修にも参加している。 当法人において、スキルの向上を目的とした、資格習得援助がある。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 同業者との交流は機会が少なく現状ではできていない。交流機会があれば積極的に参加していく。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 安心してもらえる言葉掛けを心懸けている。不安が取り去られない場合は、家族への連絡をおこない、ホームに預けっぱなしという状態を作らないよう心掛けている。より深く本人への理解を深める為、担当職員を置き、支援している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に、入所契約時の面接時等に精神面、肉体面、家族を取り巻く諸事情を伺い、本人に対する思いや希望を充分に知り得るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 状態を一番把握してる方から情報を伺い、混乱を招く対応をしないように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 馴れ合いも必要だが、尊厳を持った態度で接するように、常に職員教育を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の状況を把握した上で、お願い出来る事はして頂き、絆を失わないよう支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容院にカットに行かれたり、ドライブや買い物等に行かれている。ご主人の墓参りに行かれた方もおられる。家族が遠く離れている方は、家族の友人が来園される。個人情報大切にしながらも、一人ひとりが築いてきたものを大切にしていきたい。 (外部評価) 職員は、昔よく通っていた場所や道をドライブしたり、行き慣れた美容院へカットに行ったり、また買い物に行って知人に声をかけてもらったりするほか、デイサービスへ知人に会いに行くなど、一人ひとりが今まで大切に築いてきたことが継続できるよう支援しており、利用者本人の思いを大事に汲み取り実現している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 人間関係を十分に把握し、トラブルが起きた時は、さりげなく職員が入り、関係がこじれないように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 今後そういう事が発生した場合は、これまでの関係を保てるよう、色々な面で支援していきたい。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 言葉で訴えられる方は把握できる。言葉少ない方こそ、思いを知る必要がある事を、職員は認識し、大事にしていきたい。 (外部評価) 職員が利用者の隣に座り優しく声をかけることで、こっそりと何か思いを言ってくれることがたくさんある。また、夜中の1対1の時、お風呂介助している時やテレビを見ている時などに、職員の知らない利用者の好みのもを初めて知り感動することも多く、気づいたことはきちんと連絡ノートに記録し、職員間で共有している。また、言葉では把握し難い利用者には、ボードを使って表現するなど工夫し思いを掴んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人を一番知っている方からの情報収集や、生活歴、趣味、習慣等を知り、今の生活に生かせるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録に毎日の状態を記録。いつもと違う事が見られた時は職員に伝達をおこない、日々の状態を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 3か月に一度、計画の見直しを行っている。家族の要望や、介護職員の気づき等を取り入れながらも、本人主体の計画書であることを重視している。	
			(外部評価) 日頃から利用者に寄り添うように努め、何を希望しているかやケアに活かせることは可能な限り反映している。また、ケアプランは月1回のケアカンファレンスで話し合い、気づきやアイデアを盛り込むほか家族の意見も取り入れながら作成しており、プランの見直しは6ヶ月に1回が基本であるが、状態変化が見られた場合はその都度実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日誌、ケース記録、伝達ノート等を活用。口頭での伝達などで情報の共有を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 遠方の家族、高齢の家族、体調が悪い家族等に代わり、本来ならば家族対応の病院受診などにも対応。ラインをつけず、その時その時で柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域柄、買物等できる店もなく、坂道が多く、車での移動が多い。日頃の散歩等を通して、徐々に地域に溶け込んでいきたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご家族(ご本人)の希望により法人の協力病院以外の訪問医療 を利用されている方もいらっしゃるが、良好な関係を保ち適 切な医療を受けられている。	
			(外部評価) 利用者の誕生日には、協力医療機関で健康診断を行って おり、受診は職員が同伴し、結果は家族に報告し共有して いる。また、往診はしていないが、歯科や皮膚科は必要な時に 適切に受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師はいないため、同法人内の看護師より、適切な指示や 相談に乗っていただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力病院があり、日頃受診している為、顔なじみであり、何 事も相談にのっていただいている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説 明しながら方針を共有し、地域の関係者と 共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 開設してから3名の方の看取り介護を行った。2名は御夫婦 で入居されていた為、残された方の今後は重要視し、環境の 変化を伴わない自然な看取りを行った。最初は不安もあった が、大きな学びと感動もあった。今後の課題として、家族の 意向、職員の終末ケアの勉強会をおこなっていきたい。	
			(外部評価) 近々看取りの同意書に署名、捺印をもらう予定の利用者が いる。3名の看取りの経験があり、最初は恐がっていた職員も だんだん看させてほしいという思いになってきている。今回 看取りの利用者も家族は入院希望だったが、管理者や職員を 信頼し、事業所での看取りの方向で話を進めており、自然な 支援が進められている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 開設時にマニュアルを作成している。全職員が対応できるよう文章化している。ユニット会において勉強会もおこなっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災計画書・災害対策マニュアルを作成している。消防署立ち合いでの避難訓練も行っている。災害や、施設外徘徊者が発生した時は、同法人の協力が得られる。	
			(外部評価) いつ起こるかかわからない災害については、土砂等の災害時の避難対策に同法人内で一緒に取り組んでおり、防火訓練は、平屋建てなので職員が少人数でもスムーズに行うことができる。歩行困難の利用者は、毛布や布団に乗せて引っ張って上げることも可能である。備蓄は1週間分の水や乾パンが用意されている。また、調理は電気であるが風呂はガスなので、日頃から職員全員で火の元には十分注意し火を出さないよう努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者ではなく、人生の先輩である事を職員全員が周知するよう、教育している。できない事を一緒にお手伝いするよう職員に伝えている。	
			(外部評価) できる限り不穏にならないよう丁寧な言葉かけや対応をしつつ、日頃から利用者の過去の栄光などの話に耳を傾けることを優先するなど、人生の先輩として尊敬している。また、大きい声で話しかけるようなことはなく、利用者のそばに行っ て優しく語るよう会話が弾むような工夫をしており、管理者は普段から職員教育の一環としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 傾聴を心掛け、自己決定できるように職員間で根回しを行う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、集団的にならないように、個々の意思決定に添った支援を行う。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 「すてきですね。」「綺麗ですね。」と言葉に出して褒めてあげる事を心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食器は開設時に皆から寄付して頂いた、温かみのある陶器。皆が協力して楽しく食事作り、片付等を行っている。器、味、彩、量を考え、残食が出ないように考えながら調理している。	
			(外部評価) 献立は、法人内の栄養士があれやこれやと思いを巡らせ季節感や味付けなど嗜好を取り入れ作成しており、自慢できるメニューとなっている。食事作りには専門のパート調理員がおり、午前と午後を交替で対応している。職員は余裕をもって介護に専念できるよう休みも十分与えられており、利用者にとっては安心である。また、3ヶ月に1回のみそ作り、夏にはしそジュース、法人でのポン酢作りもあり、利用者は職員と一緒に楽しく会話しながら、笑顔で食事をしている微笑ましい様子が見える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) どうしても水分摂取は少な目になる。細目な水分補給を心掛けている。特に発熱時は脱水症状に陥らない為にも気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケア、就寝前には義歯洗浄を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 現在、日中おむつ着用の方はおらず全員トイレでの排泄である。流す事が出来ない、便器を汚す方もおられ、プライドを傷つけないように、そっと後始末を行っている。</p> <p>(外部評価) 看取りの利用者以外は全員トイレで排泄しており、職員は全員の排泄パターンを把握している。利用者が立ち上がった時などにそっと声掛けをし、さりげなく誘導するなど排泄の自立支援に努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 夏場は水分量が多く摂取できているが、冬場はどうしても難しくなる。みかん等を食べて頂いたり、食事の中に水分を多く取り入れ工夫している。食物繊維を多く取り入れるよう、心掛けている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 最初は自由に入浴されていたが、次第に不公平を訴える方が多くなった。公平に入浴できるように日にちを決めた。入浴の嫌いな方もおられ、強制的にならないように臨機応変に対応している。</p> <p>(外部評価) 一番湯の好きな利用者には「今お湯を入れましたよ」と話しかけるなどし入浴してもらっている。「お風呂」という言葉は遣わず誘導し、安心して入浴できるよう職員のチームプレイで一人ひとりにふさわしい支援や入浴剤を使って香りを楽しむなど工夫しており、利用者全員が嫌がらずに入浴ができている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 本人の意思を尊重し、マイペースで過ごされている。清潔な寝具で安心して入眠して頂けるように支援している。昼夜逆転されている方もおられ、医師からのアドバイスを受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人の薬の内容をいつでも見ることができるように、職員の机の引き出しの中にファイルが置いてある。薬に関して処方等が変わった時は、必ず、個人申し送りノートに記入。体調の変化の有無の確認を怠らない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お茶を入れるのがその方の役割になり、「朝、モップを掛けることが私の仕事よ。」と言われる方。必要とされている事の喜び、張り合いを引き出せるように、支援を怠らない。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 場所柄、坂道が多い為、転倒の危険性が多い。散歩などは、必ず職員が付き添う事としている。隣接のデイサービスに行かれていた方がおられ、時々、友人に会いに行かれています。 (外部評価) 猪が出没したりするので、気をつけて散歩をしている。また、近くの名所に紅葉狩りに車で行く途中、野生の猿などにも遭遇したことがある。お花見には裏口から入れる近くの公園へ行っており、利用者にとっては格好の散歩コースである。車で数分の所にあるあじさいロードに見学に行ったり、父の日には利用者と職員でラーメンやチャーハンを外食するなど満足している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 全員お金に関して管理ができない。家族の要望もあり、所持金は、事務所管理。お金の出入りが明確にわかるように、預り金としている。必要に応じて所持し買物されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも電話できる環境である。精神状態等も考慮し、家族に連絡、話をして頂く事が多い。お孫さんに手紙を出される方がおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ユニット入口の壁面には四季に応じた飾り付けをおこなっている。冬場は日差しが入り、温かいユニットである。夜間、小さな明かりや非常灯にも混乱を起こしている方がおられる。感知式のトイレの電気にも混乱されている方がおられる。設備上どうにもならない。昔ながらの物が一番よい。</p> <p>(外部評価) 木造でゆったりとした中庭があり、明るく風通しがよく見晴らしもよいため、季節が一目でわかる。共有空間の畳コーナーは、小箱作りなどの工作の場、運営推進会議の会場や洗濯物を畳んだり干したりする時に使用する場所となっている。また、利用者は歌を歌ったり塗り絵や足し算をしたりして、ゆったりとした気分できつろいでいる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 畳できつろいだり、家族面会があれば、掘りごたつで話をされている。床暖房であり、冬場でも寒さを訴える方はおられない。横になりたい時は居室に戻られ、誰かと話しをたくなれば出てこられ、マイペースで過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具、本、思い出の品々、亡くなられたご主人の写真、お位牌等、職員が口出しすることなく、危険な物以外は自由に置いていただいている。</p> <p>(外部評価) 家族から届いたお内裏籠が、居室に飾られているなど利用者一人ひとりの大切な場所ができ上がっており、ホッとする安心感のある空間となっている。また、職員が昼間は布団を上げスペースを確保するなど、利用者の家族が訪問してもゆっくり過ごせるよう配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内で混乱を防ぐ為に、説明書きなどを貼って対応。理解できない方には何度も声かけを行う。</p>	